

企画・編集にあたって

増刊号「泌尿器科病棟管理マニュアル」は、7年ぶりの企画です。この間、泌尿器科も他領域同様、著しく進歩し、かつ多様化しております。したがって、本増刊号に記載された医療内容や方法が、日頃皆さんが各施設で行われていることと違っている点も少なくないと思われます。このことで、若い読者の皆さんは、困惑し不安を抱く場合もあるかもしれません。しかし、このような各施設間の違いは、経験上どちらでもかまわない場合が多く、その良否を論じるよりも、いずれかの方法に精通することが肝要であると考えます。多くの情報の中から読者自身で取捨選択し、evidence based medicine に基づいた自己流「泌尿器科病棟管理マニュアル」を作り出してほしいと思います。

今回、本増刊号の企画・編集で配慮したのは以下の事柄です。

「泌尿器科病棟管理の基本」で、泌尿器科診療におけるインフォームド・コンセントにクリニカルパスとリスクマネジメントを加えました。現在の医療情勢を考えると、好むと好まざるにかかわらず、これらは時代の要求事項であります。ぜひ技術や知識を習得する以前に、これらの力作を通読し、これらの概念・考え方を理解していただきたいと思います。

「ベッドサイド検査の実際」では、尿失禁に関する検査および勃起機能検査を、「ベッドサイド処置の実際」では、抗菌剤の選択法および気管内挿管・

硬膜外麻酔の管理を追加し、対象疾患および診療内容の変化に対応しました。

特に力を入れたのは、「ベッドサイドトラブル対処法」で、実際に病棟で発生すると想定される、より多くの問題・事故・合併症に対して幅広く対応できるように大きく衣替えをしました。読者の皆さんに満足していただけるものと確信します。

「術前・術後1週間の患者管理」では、限られた誌面でもあり、代表的な疾患のみにとどめました。泌尿器科全体から見ると不十分と思われますので、本誌を基に、各施設で他の疾患のマニュアルもぜひ増やしていただきたいと思います。

研究や実験の方法とは異なり、手術方法や病棟業務の内容・方法は、伝統という名の下に大学間で大きく異なると思われます。さらに市中病院では種々様々な工夫がなされ千差万別です。そこで、各項の執筆は、その領域で幅広い経験をもち、過去の知識だけで執筆しない先生方に、しかも、全国各地の各大学病院と市中病院とにできる限り均等になるように依頼いたしました。したがって、本増刊号は、他大学・他施設が行っている医療内容や考え方を交流する良い機会でもあったと考えます。

本増刊号も、前回の「泌尿器科病棟マニュアル」と同様、病棟の本棚で、コメディカルの人たちを含めて愛読し、ボロボロになるまで可愛がっていただければ幸いです。

(藤岡知昭)